

友情の塔

友情の塔は、昭和34年9月26日、東海地方を襲った伊勢湾台風によって命を失った名和小学校児童25名、上野中学校生徒4名、合計29名の児童・生徒の慰霊の塔です。

つい昨日まで、一緒に元気よく遊んでいた友達が、9月26日の夜を境にして二度と会えなくなってしまいました。こんな悲しいことはありません。子どもたちは「何とか亡くなった友達の魂をなくさめることはできないか」と考えました。そして、いつしか、亡くなった子の写真と花が、亡くなった子の机に供えられるようになりました。さらに、職員室の前の廊下に「友情の箱」と名付けられた箱が置かれ、子どもたちがおこづかいを出し合って募金を始めました。

この「友情の箱」が新聞記事となりました。この新聞記事は、大きな反響を呼び、全国の人たちから激励の手紙や寄付金が送られてきました。子どもたちは、人々の温かい心に感動し「この善意の心を何とか形に残せないか」と先生に相談しました。

校長先生を始めとする先生方やPTAの方が検討を重ね、伊勢湾台風の被害を受けた子どもたちの友情の姿を表現したブロンズを組み込んだ塔をつくることに決定しました。そして「伊勢湾台風遭難学童の像建設委員会」が組織され、新日鐵を始めとしてさらに多くの寄付金が届けられ、塔の制作が始まりました。塔の設計には日展作家の「石田 清」氏が担当し、塔に刻まれた「友情の塔」の題字は、当時の文部大臣であった「荒木万寿夫」氏の書が用いられました。

こうして、昭和36年9月25日、伊勢湾台風の被害から2年目に「友情の塔」は、完成の日を迎えました。塔の高さは、5mの鉄筋コンクリート造りで、木目調になっています。これは、貯木場から流出して大きな被害を与えた丸太を意味しています。



こうして「友情の塔の日の会」は始まった

- ◇伊勢湾台風で名和小児童25名、上野中生徒4名、合計29名が命を失う。
(昭和34年9月26日)
- ◇亡くなった児童をしのび、机の上に写真や花が供えられる。
- ◇職員室前に「友情の箱」を置き、亡くなった児童の魂をなくさめるための募金を行う。
- ◇「友情の箱」のことが新聞記事となる。
- ◇全国から激励の手紙や寄付金が届く。
- ◇「伊勢湾台風遭難学童の像建設委員会」が組織され、「友情の塔」の建設が始まる。
- ◇昭和36年9月25日、「友情の塔」が完成し、除幕式が行われる。
- ◇完成以降、毎年9月26日に全校児童と職員、同窓会代表、PTA代表の方などが集まり、29名の冥福を祈る会が行われている。

塔の上部にはめ込まれている3面のブロンズは、次のような意味があります。

(正面)



児童と教師が災害を克服して協力、助け合う姿が現されています。

(西南)



流木と高潮の中で、親を呼び、子を呼び合う悲惨な状況が現されています。

(東南)



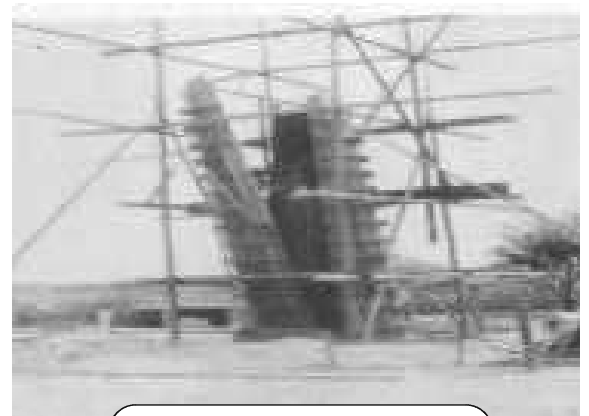
台風の影響に人々が苦しめられ、母親が子供をかばう姿が現されています。

また、塔の下部には、犠牲になった29名の名前と建立のいわれが刻まれています。塔が建立された後は、毎月欠かさず花を供えてくださる方もありました。

名和小学校では、毎年9月26日に全校児童が参加をして「友情の塔の日の会」を開催し、校長先生や当時の様子を知る方などの話を聞き、黙とうをしています。また、一人一人が折り紙などにメッセージを書き、災害の恐ろしさ、命の尊さ、友情の大切さを考え、犠牲者の冥福を祈っています。



募金当時の様子と「友情の箱」



完成間近の「友情の塔」



「友情の塔」除幕式
昭和36年9月25日



地鎮祭